

九州自然歩道

九州自然歩道は、九州の 7 つの県をつなぐ 3,000 キロメートルの歩道である。国と地方自治体が 10 年かけて計画し、1980 年に開通した。北米や欧州の長い歩道のように、ほんの 2、3 キロメートルの小さな区域や数百キロメートルにわたる壮大なコースを楽しめる。

長崎県では南北 212 km の歩道が広がり、西海岸から始まり島原半島で終わるコース（またはその逆コース）がある。どの距離の道であっても山々を越え、谷を抜け、海岸に沿う様々な経路を楽しめる素晴らしい手段である。

北から始まり、道は千々石断層と橘湾に沿って島原半島に到達する。千々石の村を歩いて通り、春から夏にかけてはツツジやハナミズキの花に覆われる丘陵地帯の放牧地へと断層を上っていく。歩道は雲仙岳へと至り、国見岳（1,347 m）を上って雲仙温泉に向かって谷を下る。運が良ければ春に池ノ原園地を通り抜けて素晴らしいミヤマキリシマのピンクの花を楽しむことができる。町にはその地域の自然と歴史を学ぶ、または数多くある温泉のひとつでリラックスする機会がたくさんある。

雲仙から、歩道は高岩山(881 メートル)を上り、静かな森を通過してたくさんの鳥居をくぐり抜け、半島南部の美しい風景が見られる山頂に到る。歩道は諏訪の池に着くまで急な谷を下る。最後の部分はなだらかな坂でじゃがいもの段々畑、棚田など美しい田舎の風景の中を通り抜ける。最後に、口之津港で半島の南西海岸沿いに到着する。遠くには天草諸島があり、九州自然歩道が続いている。